

1 教育目標（目指す児童像含む）**（1）基本目標**

心身ともに健康でたくましく、確かな学力と豊かな人間性を持ち、ともに支え合いながら変化する社会を主体的に生き抜く児童の育成。

（2）具体目標（目指す児童像）

- ・健康でたくましい子
- ・進んで考え最後までやりぬく子
- ・思いやりがあり誰とでも仲良くする子
- ・ふるさとの人や自然を大切にする子

《合い言葉：元気・やる気・勇気・思いやり》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「元気いっぱい 学びしっかり やさしさいっぱい だれもが輝く明保小」を目指し、家庭・地域の信頼と協力のもと、誰もが夢や希望を胸に喜びとやりがいをもって生き生きと生活し、成長できる学校を創る。

- 児童が意欲的に取り組む教育活動を展開し、「知・徳・体」の調和の取れた力強く生き抜く力を養う。
- 教職員が、人権尊重を基盤に、チームの一員としてやりがいを持ち専門性を磨き、教育に邁進することにより、保護者や地域からの信頼を得る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） すべての児童が安心して明るく学校生活が送れるよう、環境を整え、目指す児童像実現に向けて児童の成長に資する取組の充実を図る。
- （2） 「がんばった」「嬉しい」「感動した」等の体験により、自己肯定感・自己有用感や豊かな心を育み将来への夢が描けるよう、教育活動の質を高め、認め励ます教育を推進する。
- （3） 学業指導を基盤に、学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。
- （4） 児童の人権を尊重し、教育的ニーズを踏まえた個に応じた指導により、児童・保護者との良好な人間関係を築き信頼される学校づくりを進める。
- （5） 教職員が倫理観と使命感を持ち、資質・能力向上を高めるよう研鑽を積むとともに、校務の重点化・焦点化を推進し、やりがいを持ち、児童と向き合う時間の充実を図る。
- （6） 支えてくれる方々に感謝し、郷土を愛する心を養えるよう、宮の原地域学校園、魅力ある学校づくり地域協議会等との連携により、ふれあい活動等の充実を図る。

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

心豊かで輝く子供の育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

【重点課題】

- ★基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。（自ら学ぶ児童・生徒の育成）【学力向上部会】
- ★思いやりを高め規範意識の向上を図る。【学校生活適応支援部会】
- ★継続した筋力向上をめざし、健康で安全な生活を営ませる。【健康・体力・食育促進部会】
- ★小中および地域の交流促進を目指し、情報共有化を図る。【交流連携促進部会】
- ★学校事務の効率化・平準化を図り、学校づくりを支援する。【地域学校園事務室部会】

4 教育課程編成の方針

- （1） 教育関係所法令や学習指導要領、とちぎ教育ビジョン 2025、第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画・学校教育スタンダード等に則し、本校教育目標の実現に向けて編成する。
- （2） カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、思考力・判断力・表現力等と問題解決能力を高めるために、各教科・各領域等の関連を図った教育活動を展開する。
- （3） 創立150年の歴史と伝統を踏まえ、学校・地域・児童の実態を適切に把握し、特色ある教育課程を編成する。
- （4） 学校教育活動全体を通じた組織的なPDCAサイクルの活性化により教育課程の実施状況を評価し、必要な人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく。
- （5） 教育活動実施時数は、宇都宮市小中一貫カリキュラムを基準として編成し、1年生は安全上2年生と同様に、予備時数は基礎的・基本的内容の徹底（国・算）を中心に計画的に運用する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	(1) 学校運営	- 児童一人一人のよさを伸ばす教育の実践と誠実な行動により、信頼される教職員集団であり続けるために努力する。 ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTを効果的に活用するなど、質の高い授業を提供できるよう、校内研修並びにOJTによる指導力向上とチーム明保としての同僚性の強化を図る。 - 地域とともにある学校づくりを具現化するために、PTAや地域人材、大学・団体等の教育資源を積極的に活用した教育の充実により、特色ある学校づくりを推進する。 - 教職員が健康で働きがいを持ち、質の高い教育が持続できるように、働き方改革を推進し、業務の適正化・効率化を図る。
	(2) 学習指導	「宇都宮モデル」の活用により、学習の目標を児童と共有し、課題にじっくり取り組み学び合う活動を保障して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。また、「考えるための道具箱」（比較する・分類する・つなげる・多面的に見る・理由付ける等）の活用による思考力・判断力等を育成する。 - 令和2～4年度に実施してきた話し合い活動の充実を継続しながら、自分の考えを書く力を向上させる。 - ねらいを明確にした実験・観察・体験・調査・製作・実習等による実感を伴った学びを充実させる。 ○ 「明保小学習スタンダード」に基づいた基本的な学習態度の指導と互いに認め合う児童の育成により、学びに向かう集団を作る。 1人1台端末を学習のねらい達成ために効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図った授業づくりを実施する。 - 個に応じた指導の充実を図る。（「カスタネット通信」の活用） - 朝の学習や家庭学習の充実により基礎・基本の定着を図る。 - 夢や目標を持ち自己実現に向け努力する態度を育てるために、キャリア教育を推進する。
	(3) 児童生徒指導	- 多面的・多角的に考える道徳科の授業を核として、異年齢児童や高齢者等、様々な人との関わりふれあう体験活動や読書活動を推進して豊かな心を育む。 ○ 「明保小のよい子」の徹底により、規範意識を醸成し基本的な生活習慣を確立する。 今年度の重点「毎日めざそう5つ☆」 ☆あいさつ・返事 ☆名札 ☆くつ揃え ☆心が温かくなる言葉かけ ☆話の聞き方 ○ 自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図る。 ○ 一人一人が大切にされ、いじめゼロの実現と不登校を生まない温かい学級・学年風土を醸成する。（情報共有、教育相談、Q-U調査の活用、SCとの連携）
	(4) 健康（保健安全・食育）・体力	○ 運動量の多い教科体育の充実と各種検定による体力と運動能力の向上を図る。 - 望ましい食習慣の形成と、日常の保健指導（体温計測、歯磨き、手洗い・うがい）の徹底により、健康を管理する能力を育成する。 - 自ら仕事を見つけ協力して働く清掃指導や学校に役立つ活動を通して、自己有用感と公共心を育成する。 - 安全教育・安全指導を推進し、自他の命を守る判断力と行動力を身に付けさせる。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～B4は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡大 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、該当箇所以下線をつける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価 (昨年度と比べて5ポイント以上の上 下に↑↓)						
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合90%以上	①児童が発言したり、考えを友達と話し合ったり学び合ったりする活動を計画的に学習活動に取り入れる。 ②課題解決のために必要な情報を収集したり、選択したりする活動を丁寧に支援する。 ③ <u>単元全体を見通して、問題解決型の授業を積極的に取り入れ、児童が主体的に取り組めるようにする。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>94.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.1</td></tr></table> 1人1台端末を活用して、話し合ったり学び合ったりする学習が実施できた。 【次年度の方針】 児童が、主体的に問題解決型の学習に取り組めるよう、場の設定や支援の在り方を工夫していく。	児 童	94.1	教職員	97.0	保護者	84.1
	児 童	94.1								
教職員	97.0									
保護者	84.1									

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①エンカウンターやSSTを取り入れ、 認め励ます指導を推進し、友達に優し く接することができるようにする。 ②道徳の時間を核として、教材文の人 物の行動や心情から思いやりの心の 大切さを感じたり考えたりする機会 を意図的に設定する。 ③異学年交流や縦割り班活動、地域の 方とのふれあい活動を実施し、思いや りの心を育む。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.5</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>91.7↓</td></tr></table> 児童の言動のよさを積極的に認める 声掛けを続けてきた。道徳科の授業をは じめ、学習全体をとおして、他者との関 わり方を意識した指導を行ってきた。軽 い気持ちで言葉を発し、相手を傷つけて いることがあった。 【次年度の方針】 ①～③を継続するが、①②は時期を考 え、各学年で計画的に実施できるように する。	児 童	91.9	教職員	100	保護者	90.5	地域住民	91.7↓
児 童	91.9											
教職員	100											
保護者	90.5											
地域住民	91.7↓											
	A 3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者肯定 割合 85%以上	①学習や行事等で事前に目標を設定 する場を設け、実践後に振り返りを行 わせ、努力の過程を認め、具体的なよ さを称賛していく。 ②目標に向かって取り組む姿勢を児 童相互が認め合い、励まし合えるよう 指導する。 ③学習の見通しをもたせ、粘り強く継 続的に取り組ませることで、成果を実 感できるようにする。	A	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.9↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.5</td></tr></table> 児童が見通しをもち主体的に活動でき るように、粘り強く指導を続けた。適切 な評価をし、主体的に振り返る場の醸 成に努めた。 【次年度の方針】 保護者の実感が得られるように、学校 での児童の様子を伝える方法を工夫し ていく。	児 童	91.9	教職員	90.9↓	保護者	79.5		
児 童	91.9											
教職員	90.9↓											
保護者	79.5											
1ー(3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①避難訓練や交通安全教室などを通 して、安全教育を強化するとともに、 「明保小のよい子」を活用して日常の 生活の中の危険について学年に応じ て丁寧に指導する。 ②体育や特別活動において安全に気 を付けた生活や健康に関する授業を とおして、日常の健康管理に興味をも たせ、健康的な生活が送れるような実 践的態度を育てる。 ③食や健康について関連のある題材 や学級活動で、学校栄養士や養護教諭 と一緒に授業を考え、専門的な見方や 考え方に触れさせ、理解を深める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>92.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.9↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.6</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr></table> 各分野で計画的に健康・安全面の指導 をしたことの効果があった。また、随時 「明保小のよい子」の意識付けを行っ た。 例) 体育委員会による1分間体操など 【次年度の方針】 児童の発達の段階に合わせた指導を 計画的に行っていくとともに、共通実践 に努める。	児 童	92.5	教職員	90.9↓	保護者	84.6	地域住民	100
児 童	92.5											
教職員	90.9↓											
保護者	84.6											
地域住民	100											
1ー(4) 将来への希 望と協働す る力を育む 教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①教育相談アンケート等を活用し、居 がいのある学級経営に努めるととも に、学級活動の充実を図り、自己肯定 感や自己有用感を高める。 ②縦割り班活動やクラブ、委員会活動 をとおして、友達のよさを認め合うと ともに、協力して取組めた心地よさを 味わえるよう指導する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>92.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0</td></tr></table> 児童は、②や学級内での活動で、活躍 したり成功したりする機会があり、その ことが自己肯定感や有用感に繋がって いる。できるようになったことを意図的 に伝え、認め励ますことで、よりよくし ようとする意欲を高めることができた。 【次年度の方針】 教育相談アンケートで、さらに児童の よさやがんばりに根拠をもたせるよう にする。	児 童	92.9	教職員	97.0				
児 童	92.9											
教職員	97.0											
2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①英語を使っでの学習活動をととし、 伝え合う楽しさや喜びを十分味わわ せ、コミュニケーション力が向上する ようにする。 ②自分の思いや考えを伝え合う場面 を授業の中で意図的に設定するとと	A	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>88.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0↑</td></tr></table> 児童は、積極的にALTと英語でコミ ュニケーションを図る姿が見られた。友 達とのやり取りも英語に親しみながら、 伝え合うことができた。	児 童	88.2	教職員	97.0↑				
児 童	88.2											
教職員	97.0↑											

		もに、教材・教具の工夫を行い、外国語活動・外国語科の充実を図る。 ③ALTと連携し、授業の充実を図りながら、様々なコミュニケーションの方法を取り入れていく。	【次年度の方針】 簡単な英語表現を繰り返し行い、英語に慣れ親しむ素地をつくる。ALTと連携し、授業の中で自分の思いや考えを伝え合ったり、作成した物を見せ合ったりする等、様々なコミュニケーションの場を意図的に設定していく。								
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者肯定割合 85%以上	①「宇都宮学（3年以上）」において、宇都宮の良さについて学習 するだけでなく、宇都宮市に関連する資料やイベント等のお知らせを配付する際には、市の良さや特長を積極的に児童に伝える。 ②宇都宮学の内容を学年だより等で保護者に伝え、宇都宮の良さをともに理解できるように啓発していく。	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>8 8 . 6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>8 7 . 9</td></tr><tr><td>保護者</td><td>7 1 . 6 ↑</td></tr></table> 地域のイベント等のチラシを定期的に配布していることが結果につながっていると考えられる。 【次年度の方針】 引き続き継続して取り組んでいく。保護者には、宇都宮学の内容だけでなく、近隣のイベントに関しても適宜発信していく。	児 童	8 8 . 6	教職員	8 7 . 9	保護者	7 1 . 6 ↑		
児 童	8 8 . 6										
教職員	8 7 . 9										
保護者	7 1 . 6 ↑										
2－（2） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者肯定割合 85%以上	①1人1台端末や図書資料等を積極的・効果的に活用できるよう、各教科等の学習過程の中で意図的、計画的に指導していく。 ②教職員がICT機器や図書資料を授業の中で、使い分け効果的に使用することで、学習効果を高めていく。 ③授業参観で1人1台端末の活動場面を見てもらったり、家庭での利用を意図的に設定したりして、保護者の理解を深める。	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 2 . 7</td></tr><tr><td>教職員</td><td>1 0 0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>8 2 . 9</td></tr></table> 高学年では、各教科等と関連して図書資料を活用できるようにしている。 保護者の目の前で活用していない可能性も考えられるため、授業参観の機会も活用する必要があると感じる。 【次年度の方針】 取組を引き続き実施するとともに、家庭で1人1台端末を保護者と一緒に見る機会を設定する。端末の使用履歴を個人懇談の際に提示するなど、端末の活用が保護者により伝わるようにしていく。	児 童	9 2 . 7	教職員	1 0 0	保護者	8 2 . 9		
児 童	9 2 . 7										
教職員	1 0 0										
保護者	8 2 . 9										
2－（3） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①生活科や理科において植物の大切さを指導したり、社会科・総合的な学習の時間などにおいて、水や電気を大切にすることを指導したりする。また、「持続可能な社会」について学習内容と関連して扱い、関心を高める。 ②児童会活動（環境・掲示委員会など）の活動をとおり、児童の興味関心を高め、実践しようとする意欲を高めていく。	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 1 . 6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>9 0 . 9 ↑</td></tr></table> 各教科等の年間指導計画に位置付け、関連を図った指導を行うことで、関心が高まった。また、児童会委員会活動の充実も図れた。 【次年度の方針】 正しい情報を基に、教科等の指導と関連して行っていく。	児 童	9 1 . 6	教職員	9 0 . 9 ↑				
児 童	9 1 . 6										
教職員	9 0 . 9 ↑										
3－（1） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上	①配慮を要する児童や個別の支援が必要な児童等について、打合わせ時や職員会議において共通理解を図り、迅速で組織的な対応をする。 ②支援の方向を決める際は、ケース会議を開き組織的対応をするとともに、必要に応じてSCや専門機関との連携を図り、適切な支援ができるようにする。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>1 0 0</td></tr></table> 教職員は、打合せ等の場で共通認識、共通理解が図れていた。必要な事案にはケース会議を開き、組織的な対応をすることができた。 【次年度の方針】 より児童一人一人に目を向け、適切な支援が行えるよう、関係機関と連携を図っていく。	教職員	1 0 0						
教職員	1 0 0										
3－（2） いじめ・不登校対策の充実	A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①「いじめゼロ集会」等、いじめ防止に向けての児童の主体的な取組を支援する。また、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、学校の取組を発信していく。 ②いじめが許されない行為であることを教師が繰り返し指導し、各種アンケートやQ－Uの結果、教育相談等を	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>9 6 . 9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>1 0 0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>8 3 . 4</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>1 0 0 . 0 ↑</td></tr></table> アンケート調査をはじめ、早期発見・早期対応を心掛けることができた。各種通知や道徳科の授業などを通し、児童へ	児 童	9 6 . 9	教職員	1 0 0	保護者	8 3 . 4	地域住民	1 0 0 . 0 ↑
児 童	9 6 . 9										
教職員	1 0 0										
保護者	8 3 . 4										
地域住民	1 0 0 . 0 ↑										

		<u>生かし、未然防止・早期発見・早期対応に努める。</u>	の指導を行い、その結果保護者の理解を促すことに繋がった。児童が納得する指導を心掛け、保護者に早期に通知することによって、理解を得られている。 【次年度の方針】 ①②を継続するとともに、学年で指導をした内容を学年だよりに掲載するなど、情報の発信に取り組む。								
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①児童の自己有用感や自己肯定感を高められる場になるよう、日々の授業や諸活動で児童が活躍する場面を実現し、相互に認め励ますことができるよう学級経営を充実させる。 ②日々の観察をはじめ、教育相談週間によるアンケート調査や相談結果、Q-U調査等を活用して、不登校の未然防止に努めるとともに児童の変化に対して迅速かつ組織的に対応する。 ③教職員は、保護者と連携を図り状態を適切に把握し、個に応じた対応に努める。	A 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.5</td></tr></table> 保護者や児童と学校との繋がりを大切にし、連絡や対応を継続し、居場所を確保した。児童の様子を観察し、情報共有をすることで、よさを認めることができた。アンケートやQ-Uの活用で学級の様子を客観的に捉え、早めの対応を心掛けることができた。 【次年度の方針】 ①～③を継続し、不登校の未然防止、早期対応を心掛ける。学年・学級経営の様子が保護者に伝わるように、学年だよりに指導の内容や様子を掲載する。特に長期休業前後を意識していく。	児 童	96.1	教職員	100	保護者	88.5		
児 童	96.1										
教職員	100										
保護者	88.5										
3ー(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①教師が、相談しやすい雰囲気を日常的に醸成し、児童一人一人の困り感に寄り添い、問題解決の支援に取り組む。 ②学級経営の充実を図るとともに、 <u>学級活動をとおして、望ましい集団づくりをし、明るく居がいのある雰囲気を醸成する。</u>	B 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.7</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.4</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>90.0↓</td></tr></table> 児童の中に入り、積極的に教職員がかわることで、信頼関係の醸成が図れた。望ましい集団となるよう、具体的な指導を行った。 【次年度の方針】 学業指導の充実を図り、児童自身が心優しい集団づくりの中心となるよう、具体的に指導していく。	児 童	96.7	教職員	100	保護者	87.4	地域住民	90.0↓
児 童	96.7										
教職員	100										
保護者	87.4										
地域住民	90.0↓										
4ー(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①「宇都宮モデル」の指導過程を活用した授業改善を行うことで、 <u>分かる授業を実現する。</u> ②ねらいの明確化・板書・発問の工夫、ノート指導の充実を図る。 ③1人1台端末を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を行う。	A 【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.7</td></tr></table> 「宇都宮モデル」の授業改善においては、校内研究授業やOJTの機会を生かして深めることができた。 【次年度の方針】 引き続き、「宇都宮モデル」を基盤に授業力の向上に努める。さらに、授業における1人1台端末の活用について研究し、発達段階に応じたICT機器の活用を図る。また、低学年におけるノート指導を充実させる。中学年以降からノート、プリント、端末をバランスよく活用していく。	児 童	96.1	教職員	100	保護者	85.7		
児 童	96.1										
教職員	100										
保護者	85.7										
4ー(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①学校の全教職員が同じ目標のもとに、情報を共有しながら、学校目標の実現に向けて、教育活動の充実を図る。 ②個々の役割を担うだけではなく、校務分掌等の垣根を越えて、互いに協力して取組めるよう、同僚性を発揮する。	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100↑</td></tr></table> 共通認識のもと学校目標の実現に向けた取り組みができた。同僚性を高め協力が図れた。学校の組織力の強化が図れた。 【次年度の方針】 情報の共有を図り、学校目標の実現に	教職員	100↑						
教職員	100↑										

		③関係者が協力して取り組めるよう管理職のマネジメント力の向上を図り、学校の組織力を強化する。		取り組む。継続して同僚性を高める。管理職のマネジメントの向上を図るとともに、ボトムアップの体制づくりを行っていく。								
4－（３） 学校における働き方改革の推進	A 16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上	①各自が勤務時間を意識し、長時間労働を削減するために、効率的かつ計画的な業務遂行に努める。 ②学校における働き方改革を推進するため、業務の精選・見直し・教育のD X化を行う。 ③教職員相互に業務支援を行い、連携しながら課題解決に努める。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>97.0↑</td></tr></table> 効率的かつ計画的に業務の遂行が図れた。研修等を通してD X化が図れた。同僚性の高まりから、連携が図れた。 【次年度の方針】 効率的な働き方改革を行う。業務の見直しとD X化をさらに推進する。同僚性を高め、連携して課題解決に取り組む。	教職員	97.0↑						
教職員	97.0↑											
5－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	① <u>地域学校園の小中合同の「あいさつ運動」を年２回実施し充実を図る。</u> ② <u>図書館や食育等、各種学校園だよりの発行等を行い、小中学校間の連携の様子を保護者、地域に伝える。</u> ③ <u>小中一貫各部会での活動内容を共有し、実践につなげる。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>93.7</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>70.1</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>90.0</td></tr></table> 中学校と連携し、あいさつ運動を行うことができた。図書館だよりや食育だよりの発行ができた。また、中学校の学年だよりを掲示した。 【次年度の方針】 分科会の連携を深め、各部会の活動の充実を図る。４校の連携を図り、活動の様子を保護者や地域に伝える。運営委員会で活動の共有を行い、実践につなげる	児童	93.7	教職員	97.0	保護者	70.1	地域住民	90.0
児童	93.7											
教職員	97.0											
保護者	70.1											
地域住民	90.0											
5－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A 18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①地域や大学、企業等と連携・協力して行った教育活動を保護者・地域にも積極的にホームページや学年だより等で情報発信していく。 ②授業をねらいに合わせて、活動を充実させられるよう相手先と計画・連絡・調整していく。 ③生活科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、地域の施設や地域人材を活用した学習を積極的に行うとともに、地域学校協働活動推進員をとおして、学校支援ボランティアの活用を図っていく。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>90.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.7</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100↑</td></tr></table> 学年によって地域の方々と関わる機会の差があり、児童及び保護者が関わりを実感しにくかった。 【次年度の方針】 学年による地域の方々と関わる機会の差をなくし、今年同様、様々な教科で地域の方と関わる機会を設けていく。	児童	90.0	教職員	100	保護者	90.7	地域住民	100↑
児童	90.0											
教職員	100											
保護者	90.7											
地域住民	100↑											
5－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進												
6－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①毎月の安全点検を十分に行い、利用する人の安全な確保のため、補修、修繕を速やかに行う。 ②多くの方が来校する学校行事等では、危険予知を複数で行い、安全な環境づくりに努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.8</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100↑</td></tr></table> 安全点検を行い、適切に補修修繕が行えた。安全点検のD X化も行えた。複数の目で危険予知を行い、環境づくりに努めた。 【次年度の方針】 定期的な安全点検を確実にし、補修修繕を速やかに行う。学校行事の主務者をはじめ、複数で安全な環境づくりに努める。	教職員	100↑	保護者	89.8	地域住民	100↑		
教職員	100↑											
保護者	89.8											
地域住民	100↑											
6－（２） 学校のデジタル化推進	A 20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①情報メディア担当を中心に、教職員がデジタルの活用方法を共有し、効果的な場面で積極的に活用できるようにしていく。また、校内研修の成果を授業に生かすようにする。 ②I C T支援員と連携し、校務改善の方法を具体化していく。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr></table> 数値目標は達成されている。授業力向上プロジェクトの成果もあり、教職員が各自I C Tの活用を考え、取組を実施したことが要因であると考えられる。 【次年度の方針】 今年度は各自の取組が多かったよう	教職員	100						
教職員	100											

				に感じるため、次年度は組織的に系統立て、学年ブロック単位で同じようにICTの活用を実施できるようにする。取組の記録も蓄積し、どのような活用が有効であったか、全体で共有できるようにする。								
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①定期的なあいさつ強調週間を設けるとともに、日常的なあいさつや会釈など、あいさつの方法について随時指導する。よくできている児童を称賛し、意識化を図る。 ② <u>地域学校園の「小中一貫あいさつ運動」や地域協議会と連携した「あいさつ運動週間」、安全見守りボランティアの日々の声掛け等を生かしながら、自然にあいさつができるようにしていく。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>93.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>77.3</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>75.0↓</td></tr></table> 強調月間や生活目標、企画などにより意識付けがされていた。声が出ている児童をその場で認め、意欲を高めた。個人差が大きく、声量や態度面からも大人と児童の認識の差が出ている。 【次年度の方針】 動画などを活用し、具体的にあいさつできている様子を明確にする。①②は継続し、児童があいさつに抵抗がなくなるようにしていく。	児 童	93.3	教職員	100↑	保護者	77.3	地域住民	75.0↓
	児 童	93.3										
	教職員	100↑										
	保護者	77.3										
地域住民	75.0↓											
B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 90%以上	①「明保小のよい子」の徹底により、規範意識を醸成し基本的な生活習慣を確立する。 ②「毎日めざそう5つ☆」(あいさつ・返事、名札、くつ揃え、心が温かくなる言葉かけ、話の聞き方)定着させるために、強化週間を設けたり、児童会や高学年が主体となって強化する活動を取り入れたりして、児童が意識的に取り組めるように工夫をする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>94.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>93.9↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.6</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100↑</td></tr></table> 5つ☆を守れている児童が多い。それらを認めることで達成感を得ることができた。「明保小のよい子」により基準が明確になっている。安全面に関するきまりが守れていない様子も見られる。 【次年度の方針】 ポスターなどで呼び掛けたり、明るい掲示物などを活用したりし、きまりを「見える化」する。コミュニケーションやマナーなどを学ぶ機会を設け、きまりを守る必要性やよさについて意識を高める。	児 童	94.5	教職員	93.9↑	保護者	89.6	地域住民	100↑	
児 童	94.5											
教職員	93.9↑											
保護者	89.6											
地域住民	100↑											
B 3 児童は、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①自己肯定感や自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導の充実を図り一人一人が自分のよさを捉えられるようにする。 ②学級や学校のために、進んでよい行いをしている児童を称賛したり、前向きな気持ちで役に立とうとしている児童を支援したりして、成長を実感できるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>80.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr></table> 教職員は自己肯定感や自己有用感を育む場づくりをしているが、児童の実感是不十分である。 【次年度の方針】 日常から褒める機会を増やして、些細なことでも分かりやすい言葉で児童のよさを伝える。	児 童	80.9	教職員	100					
児 童	80.9											
教職員	100											
B 4 児童は、授業等でめあてに向かって学び、振り返りを行っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①授業で、めあてを明確に提示し、本時の活動の見通しをもたせるとともに、振り返りをさせることで、学びの実感を得られるようにする。 ②めあてを意識した、話し合い活動を重視し、主体的に課題解決できるようにするために観点を提示し、充実を図る。 ③1人1台端末を活用し、学びの充実と振り返りの累積を図っていく。	A	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>85.7</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.8</td></tr></table> 1人1台端末を活用した振り返りは実施しやすく、効果的であった。めあての提示や主体的に課題解決するための観点の提示については、より充実を図っていく。 【次年度の方針】 振り返りの実施方法についてはGoogle フォームやスプレッドシートなど、学年、ブロック等で効果的な実施方法を検討する。	児 童	85.7	教職員	100	保護者	68.8			
児 童	85.7											
教職員	100											
保護者	68.8											

	B5 教職員は、校内研修やOJTを通して学び合っている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①校内研修を行い、研修の目的を明確にし、授業力の向上を目指すことにより学び合う集団として向上できるようにする。 ②若手教員育成システムを活用したり、各校務分掌でチームを組んだりして、日常的にアドバイスができるようにする。OJTによる指導力向上とチーム明保としての同僚性の強化を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100↑</td></tr></table> 研究主任を中心に校内研修を行い、学び合う集団として高められた。若手育成システムを活用し、OJTによる指導力の向上が図れた。 【次年度の方針】 研究発表会に向けて、年間を見通して研修計画を立て、さらに充実した校内研修を行う。様々な観点で研修グループを構成し、OJTによる指導力の向上を高める。	教職員	100↑
教職員	100↑					

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・1人1台端末の活用を図ることで、学び合ったりする活動や主体的な表現力の育成が図れた。
- 道徳科の授業をはじめ、学習全体をととして、他者との関わり方を意識した指導を行ったことで、思いやりの醸成が図れた。
- ・めあてと振り返りを重視した「宇都宮モデル」の推進を図ってきたが、より児童が成長を実感できるようなものにしていく必要がある。
- ・自己肯定感や自己有用感を育む場づくりと認め励ます指導を行ってきたが、特別活動の充実に課題がある。

7 学校関係者評価

- ・児童は、落ち着いた雰囲気の中で、授業に熱心に取り組んでいる。
- ・児童の地域住民やボランティアへの挨拶が不十分である。児童一人一人の個別の状況は違うが、高学年の指導が必要である。
- 小中一貫の取組を地域の方にもさらに周知できるとよい。
- ・地域の安全上の問題を、保護者にも伝える方策が必要である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・挨拶の醸成については、自然とできるように、指導の充実を図る。
- ・情報メディア教育の一層の活用を図る。1人1台端末の効果的な活用したり、シティズンシップ教育を推進したりする。
- 小中一貫教育の、児童、保護者、地域住民への周知に努める。
- ・特別活動や総合的な学習の時間の一層の充実を図る。
- ・学習の課題を解決する方法を児童自らが選択し、問題解決できるような授業づくりを行う。
- ・各教科等を通して、書く活動を具体的に進める。